



開校明治七年
開校146年目

宗岡小だより

学校教育目標

自分がすき・友だちがすき・町がすきな宗岡の子

育てる子供像 地域を愛し、誇りをもって、地域に貢献する子供

めざす学校像

「安全・安心できれいな学校」
「子供達一人一人の居場所があり、輝ける学校」

令和2年一学期末号

志木市立宗岡小学校

児童数 456名・学級数 18学級

住所 志木市中宗岡3-1-1

TEL 048-471-0307

夏休みの生活目標

規則正しい
生活をしよう

- ・朝のうちに学習しよう
- ・交通事故に気を付けよう
- ・2学期の準備をしよう

目標がなければやる気は起きない

校長 石田 賢一

新型コロナウイルスの影響で例年よりも2か月遅れで始まった一学期も7月31日で終業式を迎えます。

一学期を振り返ってみますと、最初の2週間は分散登校となり各教室に児童が半数しかいない中での授業でした。教室が少し寂しかったですが、子供達の姿が学校に戻ってきてとても嬉しかったのが昨日のことにように思い出されます。6月中旬からは、子供達全員が登校することができました。その後、宗岡小学校では、子供達のマスクの着用や手洗いの励行、各ご家庭での体温測定や体調管理、学校の教職員による教室の消毒などの新型コロナウイルス感染予防の対策を行い、大きな混乱もなく無事に一学期を終えることができました。校長として子供達や保護者の皆様、教職員への感謝の気持ちでいっぱいです。

さて、8月1日からは18日間の夏季休業日となります。今年の夏季休業日は例年よりも期間が短くなっていますが、子供達には普段できないことにチャレンジしてもらいたいです。そのためには、子供達の「やる気」が大切になってきます。では、「やる気」が起きるのにはどのような条件が必要になるのでしょうか。

学習心理学、家族社会学の専門家である笹田哲夫氏の著書『学ぶ力と意欲を育てる60のいい話』には、やる気を起こすための条件がまとめられています。

やる気を起こすには、次の4つの条件を満たす必要があります。①「目標がはっきりしている。」
②「現状と目標とのズレが、はっきり分かる。」 ③「このズレを埋めるためのステップ(手段・やり方)が分かる。」 ④「このステップを使って、着実に目標に近づいているのが実感できる。」の4つです。

やる気を起こすためには、まず目標がなければダメです。しかし、その目標なり夢なりが、子供達にとって現実離れしていて、実現不可能なものであれば、子供達にそれを手に入れようという気持ちは起きないでしょう。また、実現可能と思われる目標であっても、子供達がそれを手に入れる方法を知らなければ、どうやって努力すればいいのかわからないので、やる気は起きないでしょう。

「やる気」を起こすにはあれこれ迷わずに、努力すれば達成できそうな身近な目標を一つ立ててみるのが大切です。たとえば、テストで80点をとることで、トレーニングをして体を鍛えることでもよいのです。まずは目標を設定することです。

目標が立ったら、それを達成するために積極的に努力する。力がついてくれば、それにつれて自信がつき、目標達成への意欲、すなわち「やる気」が着実に増していくこととなります。いわゆるスモールステップと呼ばれるものです。

目標とするもののイメージは、強く描かれれば描かれるほど達成しようという気持ちも強くなります。だから、目標を設定するときも、押しつけや強制によって、イメージにマイナスの価値を与えないようにするべきです。あくまで子供達自身に選ばせ、納得させて、事を運ぶようにしなければならぬのです。「やる気」を起こすには、こうなりたい、ああしたいというイメージを心に描くことが何よりも大切なのです。

この夏季休業中に子供達一人一人がしっかりと目標を設定し、その達成のために努力して、多くの達成感を味わってくれることを祈っています。